国土交通省政策会議分科会（第６回）議事要旨

１．日時：平成２２年４月６日（火）８時～９時

２．場所：衆議院第一議員会館第一会議室

３．国交省出席者：原田土地・水資源局長、谷本土地・水資源局水資源部長
加藤都市・地域整備局長　ほか

４．議題：平成２２年度予算執行における所管事項説明
（土地・水資源局、都市・地域整備局）

５．議事要旨
（１）配付資料に沿って説明
（２）出席議員からの主な意見
・水資源について、山が大事。山と一体感を持った政策を進めてほしい。国土交通省は大きな仕事を所管しているのでグランドビジョンをもって多面的にやってほしい。
・ダムは河川局だが、大臣が頭からダム廃止と言っているのは間違い。無駄なダムは要らないが、ダムが必要なところもある。
・条件不利地域「等」には、中山間地域は含んでいるのか。
・「地域資源」や「既存ストック」を活用した多様な交流とは具体的には何か。
・水源涵養は重要である。農水省と連携してやってほしい。
・下水道と合併浄化槽を比較すると、バイオマスの活用など多目的な利用の点で、合併浄化槽には欠点があると思うがどうか。
・スケジュールを盛り込んでほしい。前回の分科会でも指摘している。
・商店街など中心市街地の空洞化は重要な課題と思うが、どのように取り組もうとしているのか。
・食料農業農村基本計画にも都市と農村の一元化が盛り込まれているが、どう取り組んでいくのか。
・水ビジネスについては国際展開が大事だが簡単ではない。政府が支援しないといけないが方策はあるのか。
・水源地の森林は荒れている。外国マネーによる買い占めが進行しているという話があるが問題である。国交省として実態把握しているのか。把握していれば対策しているのか。また水を運ぶ水道事業も先日

特集をやっていたが劣化が激しく、漏洩している。
・水の総合管理は大転換時期にきている。フルプランの見直しはあるのか。
・都市型洪水の対応、雨水の利用など新しい政策を進めるためにがんばってほしい。
・本日政務官はなぜ出席していないのか。
・政務官の出席について、政策を反映していくのだから一人でも出席してほしい。政策会議の分科会なのできちんと伝えてほしい。

（３）出席議員からの発言を受けての国土交通省の回答
・水は関係省庁が多数あり、関係省庁と連携して対応していきたい。水資源の保全における森林の重要性は理解していただくよう啓発してまいりたい。
・条件不利地域「等」の中に中山間地域は含まれており、農水省と連携して対応している。「地域資源」とは、例えばストーブ列車という資源を活用し、地域の食材提供をしている。「資源ストック」は廃校舎・保育所など、地域が持っている資源を活用した交流を行っている。
・下水道は再生水や下水汚泥等バイオマスの集約・利用の点で合併浄化槽と比べて効率はよいと考えている。
・政務２役の出席する対策会議を多く開くことが難しいため、事務方より説明する場として分科会を開催することとした旨聞いている。
・前回の指摘を受け、資料も前回より工夫させていただいた。
・中心市街地活性化法により認定を受けた市町村に対して助成、支援をしている。医療、福祉施設をまちなかに誘導する取り組みをしていきたい。都市計画法でも農地法でも貴重な農地は残したいという考え方は一緒。制度をどう分担して実行していくのかは農水省と協議していきたい。
・水の管理運営は地方自治体が行っており、民間にはノウハウがない。地方自治体のノウハウも輸出していきたい。
・森林の関係だが、非常に深い森林の場合、地下水は深いところにあり、大規模な井戸を掘る場合は、条例もある。土地が買われたとしても直ちに水資源に何か危機的な状況が起こるとは認識していない。老朽化については、たとえば既存の水路を活用できれば改築コストの削減にもなるので調整を図りたい。
・ダムについては、有識者会議で検討を進めており、その結論が出ればそれに沿う形でフルプランの変更を行う。　　～以上～